

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	9	19	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	6	3	ヘルパンギーナ	184	310
咽頭結膜熱	37	13	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	8	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	57	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	253	289	流行性角結膜炎(はやり目)	16	10
水痘	47	57	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	426	615	無菌性髄膜炎	2	0
伝染性紅斑(りんご病)	1	0	マイコプラズマ肺炎	3	1
突発性発しん	49	44	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 手足口病
- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ

- 手足口病 報告数:426件(前週:615件)
地区別:人吉、菊池、熊本
年齢別:1歳 155件(36.4%)
- 感染性胃腸炎 報告数:253件(前週:289件)
地区別:有明、菊池、山鹿
年齢別:1歳 44件(17.4%)
- ヘルパンギーナ 報告数:184件(前週:310件)
地区別:菊池、八代、宇城
年齢別:1歳 47件(25.5%)

※手足口病もヘルパンギーナも報告数は減少傾向にありますが、熊本県内警報レベルは継続して越えており、引き続き注意が必要です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所			8	8	46	12	148		14		59	3		15		2	1	
山鹿保健所			5		18	3	12		2		4		*	*				
菊池保健所	5		4	19	50	18	73	1	11		42							
阿蘇保健所													*	*				
御船保健所					7	1	3				2	2	*	*				
八代保健所	2			1	16	1	24		1		23							
水俣保健所					10	1	14		1		8	1	*	*				
人吉保健所	7		2		22	2	54		3				*	*				
有明保健所		1	9		54	1	31		9		16	1						
宇城保健所			2	2	24	7	36		4		18	1	*	*				
天草保健所			7	4	6	1	31		4		12			1				2
計	9	6	37	34	253	47	426	1	49	0	184	8	0	16	0	2	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	9		1		1	1			1	1		2	2								
小児科定点年齢	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	67	1	3	1	1			5	5	3	4	1		3							
咽頭結膜熱	37		1	2	7	6	5	5	3	4	1		3								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34			1	3	3	4	7	6	1	4	3	2								
感染性胃腸炎	253	2	18	44	32	22	16	25	11	12	10	9	33	1	18						
水痘	47	2	3	5	11	6	12	5	3												
手足口病	426	12	65	155	69	43	28	15	14	9	5	1	5		5						
伝染性紅斑	1			1																	
突発性発しん	49	1	28	19		1															
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	184	3	20	47	35	31	19	9	6	3	3	3	3	1	1						
流行性耳下腺炎	8					1	3	2	1					1							
眼科定点年齢区分	合計	0~5 ヵ月	6~11 ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	16			1						1				1	4	5	1	2			1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	2		1							1											
マイコプラズマ肺炎	3			1									1								
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ヘルパンギーナ:菊池、八代、水俣、宇城、天草
- 手足口病:熊本市、山鹿、菊池、八代、水俣、人吉、有明、宇城、天草

腸管出血性大腸菌感染症(O157等)に注意しましょう

【腸管出血性大腸菌感染症(O157等)に注意しましょう】

○腸管出血性大腸菌とは?
大腸菌は、ヒトをはじめとした生物の腸内に存在する細菌です。
ヒトの腸内に通常存在するものは、一部のビタミンを作るなど、消化・吸収に役立っています。しかし、なかには下痢などの症状を引き起こす種類があり、病原性大腸菌と呼ばれます。

【症状】

- ・下痢症状と腹痛から始まり、吐き気や発熱を伴うこともあります。
- ・発症した方のうち6~7%程度は、溶血性尿毒症候群(HUS)や脳症などの重篤な合併症に進行すると言われています。
- ・特に、子供や高齢者など、免疫力の弱い方は、重症化しやすいので注意が必要です。激しい腹痛や血便がある場合には、医療機関に相談してください。

【予防方法】

- (1) 手洗いをしましょう。
・調理や食事の前後、トイレの後は、石鹸を使ってきちんと洗いましょう。
- (2) 食品の取扱いに注意しましょう。
・調理器具を介した感染を避けるため、食材ごとに器具を変えるか、洗いましょう。
・肉を扱った調理器具は他の食材に触れないようにして、焼く前と焼いた後の肉を扱う「トング」を分けましょう。
・肉や卵は、中心部まで充分加熱し、生焼けでは食べないようにして、調理後は、できるだけ早く食べましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課